

初版『漢英合璧相連字彙』の考察

李 晶鑫

要旨：ステント (George Carter. Stent, 1833-1884) の学術生涯は長いとは言えない。来華後、ステントは中国語に対して非常に情熱を持ち、語学に対して天賦の才を十分に発揮し、十数年間に大量の文章が雑誌と新聞に掲載され、多数の著書も出版された。その中に最も有名なのは『漢英合璧相連字彙』である。本稿では初版『字彙』を3つの側面から詳細に分析したい。

キーワード：G.C.ステント、漢英合璧相連字彙、構成、後続版本、底本と継承

はじめに

ステント (George Carter. Stent, 1833-1884) は、19世紀の中国における名高い学者の一人である。特に『漢英合璧相連字彙』(以降『字彙』と省略する)は当時のほかの英華・華英辞書と異なり、独自の風格を持っており、生活に根ざした内容であり、実用性がある。収録した語彙は主に日常生活でよく使用される語彙を幅広く採用し、生活の様々な方面にわたっている。ただし、現在に至るまで『字彙』に関する研究は多いとは言えない。¹本稿では、初版『字彙』の構造とその特徴を一つずつ描写し、その上で、『字彙』の版本状況、底本と継承状況を検討する。

一、ステントの略歴²

ステントは1833年6月15日にイギリスのカンタヘリーで生まれた。ステントの家庭状況は良いとは言えず、高等教育も受け受けていないようである。1855年ステントは故郷を離れ、イギリスの第14国王軽騎兵団 (14th King's Light Dragoons) に参加し、1860年代中期、英国公使館警護として来華した。³来華後、ステントは中国語学習を始めた。当時の英国公使館主席書記官ウエ

¹ 主な先行研究は、那須雅之 (1993) 「G. C. Stent とその著書について——A Chinese And English Vocabulary In The Pekinese Dialect (《漢英合璧相連字彙》) を中心として」、宮田和子 (2010) 『英華辞典の総合的研究——19世紀を中心として』 (pp.254-257, 307-308)、沈国威 (2011) 『近代英華華英辞典解題』 (pp.153-162) と高永偉 (2012) 『辞海茫茫-英语新词和词典之研究』 (pp.274-284) である。

² 李晶鑫 (2017) 「ステント (George Carter Stent) の生涯と著作」、『文化交渉東アジア文化研究科院生論集』、第7号、pp.81-86。

³ ステントは宣教師ではなく、リーメイソンの成員の一人であり、階級は職人 (Craft) である。入会時期は不明である。

ード (Francis Tomas Wade, 1818-1891) はステントの語学的才能 (特に口語的才能) を認め、自身でステントを手助けた。その後、ステントは中国小説と歌謡に次第に興味を持つようになり、中国小説を翻訳する意欲が徐々に強くなっていった。1869年、清国関税庁に移り、ロバート・ハート (Robert Hart, 1835.2.20- 1911.9.20) の援助を受け、精力的に中国語を学習した。1871年6月9日、処女作である *Chinese Lyrics* がロイヤルアジア文会北中国支会誌 (*Journal of the China Branch of the Royal Asiatic Society*) に発表され、生涯にわたり大量の中国歌謡、民謡、詩歌と戯曲を翻訳した。同年11月『漢英合璧相連字彙』 (*A Chinese And English Vocabulary in The Pekinese Dialect*) は上海で出版された。1876年から、ステントは中国文化に対して更に理解を進め、学術的な文章や著書を次々に発表した。1877年、第2版の『漢英合璧相連字彙』を出版した。1884年9月1日、高雄で死去した。

二、初版『漢英合璧相連字彙』(1871)

1、図書館館蔵情況⁴

1871年の初版『字彙』はステントの最初の著作である。⁵『字彙』編纂の基礎となるのは中国小説である。小説を翻訳するために、ステントは小説における文化的語彙、口語、俗語、成語この四種類の語彙をできる限りに記録して整理し、ついに名著『字彙』を編纂した。初版『字彙』の発行元は中国 (上海) であるが、中国における図書館の検索規定が複雑なので、中国での所在はまだ確認できない状況である。いっぽう、筆者は日本で3冊を見つけ、さらにイタリアのナポリ国立国家図書館に1冊、総計4冊を発見した。その他、筆者はWEB図書館 Internet Archive にカリフォルニア大学蔵本のPDF版を1冊みつけたが、残念ながら現時点までにこの版本の実物を見る機会得ていない⁶。その館蔵情況は以下のものである。

表 1

<i>A Chinese and English Vocabulary in the Pekinese Dialect</i> 1871				
図書館	冊数	寸法	請求記号	説明
東洋文庫	1冊	22*14	貴 III-12-D-a-21	情況良い

⁴ 筆者は宮田 2010 (pp. 254-255) に描写している『字彙』諸版本の所蔵機関と所蔵者に基づき調査した。筆者は実物を見ているということは、言語資料研究、辞書研究の分野では不可欠なものと考えており、先行研究を土台として現地に赴いて調査した。

⁵ 『字彙』を編纂した後、ステントは 1884 年までに各種の作品を次々に編纂し、その十数年間は総計 45 篇の文章 (絶大部分は中国詩歌、民謡、或いは戯曲の訳文である) が雑誌と新聞に掲載され、11 部の著書 (第 3 版『字彙』とヘミングによる改訂版を含む) を出版された。李晶鑫 (2017) ステント (George Carter Stent) の生涯と著作、『文化交渉東アジア文化研究科院生論集』、第 7 号、pp.86-95。

⁶ Internet Archive にはその版本の PDF 版 (<https://archive.org/details/achineseandengl01stengooog>) がある。また、Internet Archive にはナポリ国家図書館蔵本の PDF 版 (https://archive.org/details/bub_gb_ib9hORjFeUcC) がある。

天理大学図書館	1 冊	20.5*14.8	823 // 2(3)	扉が欠ける
東京大学総合図書館	1 冊	21*14	D100:450	状況良い
ナポリ国家図書館	1 冊	22*15.7	BIB. PROV. 20. 192	状況良い
カリフォルニア大学図書館	1 冊	不明	712b.S826 c.2	PDF 版

初版の状況は良いと考えられるが、ただ天理大学図書館本の扉は失われている。表紙と寸法は本によって異なるが、辞書の構成は諸本全て同様である。

2 構成

本辞書は、扉、献詞、序言、本文、索引、部首表、ノートと正誤表という八つの部分で構成されている。具体的な情報は以下である。

表 2

扉	献詞	序言	本文	索引	部首表	ノート	正誤表
1(1) ⁷	1(1)	5	1-572	音順 575-624 部-音順 627-650	651-658	659-673	674-677

1) 扉

本書の扉には、次のように書かれている。「/」は改行を表す。

漢英合璧相連字彙 / A / CHINESE AND ENGLISH / VOCABULARY / IN THE / PEKINESE
DIALECT / ===== / BY / GEORGE CARTER STENT, / Imperial maritime Customs / ===== /
SHANGHAI: / PRINTRD AND PUBLISHED AT THE CUSTOMS PRESS / 1871.

扉の示すように、本書の中国語書名は『漢英合璧相連字彙』であり、当時のほかの辞書と異なり、ステントは明確に自分の辞書を「字彙集」と定義した。そして、「合璧」は「漢」と「英」を関連し、「相連」は「親字」と「語彙」をつながると考えられる。さらに英文書名は *A Chinese and English Vocabulary in the Pekinese Dialect*. となり、「Pekinese Dialect」は「北京官話」と表明していることから、この辞書は北京官話に基づく華英対照の字彙集とわかる。そのほか、出版地は上海であり、出版時期は 1871 年である。

2) 献詞

1869 年にステントは清国関税庁に移り、それから 14 年の海関生活を始めた。1869 年から 1871 年『字彙』を成書するまでに、辞書編纂過程中ステントはロバート・ハート（当時の清国関税庁総税務司）にさまざまな方面から援助を受け、ついに『字彙』を出版することができた。ハートに感謝するために、成書後ステントは辞書の前で献詞をつけ、最大級の感謝と敬意をハートに呈した。

⁷ この「(1)」は裏面は白紙 1 頁という意味である。

3) 序言⁸

5 ページにわたる序言には、①本書の縁起、②新たな構成、③ウェード式の採用、④量詞の配列方法、⑤語彙採用基準、⑥二つの索引という六つの点が言及されている。

4) 本文

本文はウェード式—語彙—訳文という構造で編纂され、語彙はウェード式の ABC 順で配列された。全ての語彙は親字、関連語彙と連語で並べている。この構成方法は現代華英辞書で良く採用されるが、最初に提出した人はステントと考えられる。全文約 4219 個（多音字を含む）の親字を収録し、親字に基づく関連語彙と連語は約 20000 個を採録した。⁹記述項に長文、俗語と典籍という多音節文を収録しておらず、ただ単音節（親字）、双音節（語彙と二字連語）、三音節（三字語彙と三字連語）、四音節（四字語彙、成語、四字連語）を採用している。他の百科事典のような辞書と異なり、中国語学習の初心者に対して、わかりやすく、より実用的であると考えられる。例を挙げて、具体的に見ていこう。

表 3¹⁰

双音節		
語彙	家庭	愛人, 側室, 丈人, 丈母, 長弟, 長子, 季父, 繼嗣, 契父, 家人...
	行為	張傘, 撐船, 乘涼, 騎馬, 寄信, 砌牆, 加衣, 澆花, 剪髮, 撿柴...
	用品	襖兒, 釵釧, 常服, 罩子, 潮腦, 車轎, 鍼線, 几案, 角梳, 鉛筆...
	飲食	熬酒, 茶酒, 常飯, 炒肉, 蒸肉, 醬菜, 餃子, 煎餅, 饊菓, 忌口...
	法律	案件, 案情, 章程, 章法, 掌囚, 招罪, 證見, 呈詞, 緝捕, 監禁...
	自然	潮水, 潮涇, 七星, 畦田, 氣候, 江河, 降水, 節氣, 澗溝, 金星...
	生物	阿魏, 蚱蜢, 沉香, 陳皮, 鷄子, 寄生, 漆樹, 家雀, 結菓, 蛟屬...
	經濟	債累, 產業, 帳目, 帳單, 招租, 折兌, 寄貯, 交易, 借貸, 錢局...
	軍事	安營, 戰場, 將令, 起兵, 槍藥, 交戰, 剿滅, 校尉, 捷報, 建功...

⁸ 沈国威 (2011) 『近代英華華英辭典解題』 (pp.153-162) は初版『字彙』の序言の漢訳版を掲載し、『字彙』に対する解題と短評をほどこした。

⁹ 本書の索引に 4222 個の親字を記録したが、現在に至るまでに筆者は索引に現れ、本文に現れない親字三つを見つけた。したがって、全部の親字を調査しなければ、本書における具体的な収録状況は断言できないと考えられる。

¹⁰ 筆者は辞書の前 100 頁の内容を簡単にまとめ、収録語彙の観を呈するためにこの表を作った。本辞書は日常用語が多いので、恣意性は高く、意味による分類は非常に困難であると言えるだろう。本稿では、沈国威 (1994) による分類方法 (政、経、人、自、教、工、軍、宗、他の 9 種類に分類) に基づき 22 種類で分類してみる。ただし、この分類方法は全ての語彙に対するのは、全部の語彙を試みなければその方法は適当であると言えないだろう。紙幅に制限があるので本表は双音節語彙のその中の 11 種類を現れ、そして、単音節は親字だけで、本表には挙げない。

	教育	啟蒙, 及第, 講書, 教學, 教官, 教授, 教書, 解元, 借喻, 切韻...
	民俗	招魂, 超度, 乩卜, 吉星, 祭祀, 祈賜, 叫魂, 解夢, 籤語, 請仙...
連語	挨著, 愛病, 按著, 差著, 這個, 幾回, 幾歲, 起來, 棄了, 假的, 交給, 瞧瞧...	
三音節		
語彙	安息日, 安南國, 茶壺嘴, 攪槍星, 帳目單, 丈母娘, 照日葵, 千里鏡, 千字文...	
連語	挨了打, 閘上水, 宅天命, 差來了, 差了來, 氣高帽, 價錢貴, 膠粘得, 叫什麼...	
四音節		
語彙	按察使司, 掌院學士, 牽頭老婆, 諫議大夫...	
成語	愛民如子, 安居樂業, 暗箭傷人, 側耳旁聽, 撒水拏魚, 珍饈美味, 借刀殺人...	
連語	唉的一聲, 礙你何干, 張羅張羅, 著兒不錯, 將纔去了, 悄悄兒的, 值得多少...	

上の表に示したように、収録した語彙は専門用語が多いとは言えず、生活にそくしており、実用性がある。それはステントの特別な中国語学習動機と方法の結果と考えられる。まず、ステントは宣教師ではないため、宗教理念や知識などの伝播の義務がなかった。即ち、ステントはただ興味、交流、或いは生活のために中国語を勉強している。さらにステントの語彙の取材対象は中国小説なので、採録された語彙は日常用語、或いは口語多く含む傾向にあると考えられる。次に、ステントと先行者の理念と大きく異なる点は、ステントの思考はかなり实际的であると考えられるという点である。「この辞書は原則として、中国語の先生が辞書で調べなくても分かる漢語を選んだ。この選び方にした理由は、経験が豊富で知識が広い中国人が辞書を引かなければ分からない漢語は、きっと常用語ではないと考えるからである。」と辞書の序言に述べている。その土台となっているという点で、この辞書は一つ独立の系譜を構成したと言えるだろう。

訳文部分の編纂過程について、ステントは最初に中国小説を翻訳したいと思っていたが、中国語に対してより深く勉強するにつれて、やがて翻訳の難点を発見した。この内容は序言に垣間見ることができる。¹¹

……However, I found none that I thought would be readable in English, from the subject being either utterly absurd, filthy, or childish; in fact untranslatable; but yet there was a great deal of information to be gained in reading them; many curious customs described, domestic episodes vividly depicted, not generally known to foreigners, but of every day occurrence among the Chinese; combinations of characters, phrases and idioms, that are not met with in other books; ……

¹¹ 実際にステントはその生涯で中国小説を翻訳しなかった。一方、ステントは大量な中国詩歌を翻訳した。ステントの中国詩歌の翻訳理由を彼の詩集 *Entombed alive and other songs* (1878) の序言部分に少し垣間見ることができる。ステントが詩歌を翻訳する理由の一つは確かに彼が中国詩歌に興味を持っていたことであり、もう一つは彼には外国人に中国詩歌と民謡を紹介する意欲があったからである。

上記のようにステントは中国語と異なる言語間にはある程度翻訳不可能性が存在することを悟る。簡単に言うと、ステントは文化的語彙、口語、俗語、成語この四種類の語彙の翻訳不可能性(或いは困難性)を認識していた。先行研究にこの難点を指摘した研究成果も少しあるが、ステントはこの問題を解決するために、実行に移し、小説翻訳時期に翻訳不可能あるいは翻訳困難な語彙(主に日常用語)をできる限りに記録して整理し、『字彙』を編纂した。初版『字彙』においてステントは原文の意味を忠実に翻訳した上で、実際の使用状況と自分の理解も含めて翻訳した。ただし、ステントの中国語学習時間に限界があったために、直訳現象はまだ多く、誤訳現象も少しある。

5) 索引

本書はウェード式 ABC 順(以下音順に略す)と部首-ウェード式 ABC 順(以下部-音順に略す)という二つの索引がある。音順では、ウェード式の ABC 順に基づいて親字だけを配列し、全部 4222 個親字と 404 個の音節を記録した。調査範囲では「惆」、「湘」と「珂」という三つの漢字はただ索引に現れ、本文に出現していない。¹²また、音節から見ると、本書の発音表記はウェード式に基づいて編纂されたが、完全にウェード式を採用せず、ステントは北京官話の発音表記に対して明確な考えを持っており、ウェード式に基づき最適化したと考えられる。¹³

表 4

	『尋津録』(1859) ¹⁴	『語言自邇集』(1867) ¹⁵	初版『字彙』(1871)
音節数	397	420	404

いっぽう、部-音順索引は部首の筆画順に基づき、同じ部首の親字は ABC 順で並べた。

6) 部首表

初版『語言自邇集』(1867)の部首表¹⁶を完全に採用し、214 個の部首を記録した。

7) ノート

¹² 現在に至る調査範囲は本文の 1 頁から 265 頁までである。そして、この 3 つの親字とその語彙はそれぞれ第二版の『字彙』(1877 年)本文部分の第 103 頁、203 頁、271 頁に出現した。

¹³ 現れない音節はそれぞれ ch'iai、ch'üo、ch'üo、ê、êng、hsio、hsüo、k'uo、k'a、lio、lüeh、nüeh、nüo、nun、pou、yai である。

¹⁴ トーマス・ウェード(1859) 尋津録, *Hsin Ching Lu : Book of Experiments Being the First of A Series of Contributions to The Study of Chinese*, pp. 74-75。

¹⁵ トーマス・ウェード(1867) 語言自邇集: *A Progressive Course, Designed to Assist the Student of Colloquial Chinese*, Part 1 Sound Table or List of Syllables, pp. 8-11。

¹⁶ トーマス・ウェード(1867) 語言自邇集: *A Progressive Course, Designed to Assist the Student of Colloquial Chinese*, Part 2 The Radicals General Table, pp. 15-22。

ノート部分は 104 個の記述項があり、417 個の語彙に触れている。収録範囲のかなりの部分は中国民俗に関するものである。注意しなければならないのは、ステントはここにほかの書籍の内容を引用したという点である。

図 1

72. *pa²-ko⁴.tzū⁴.rh²* 八個字兒. These are characters taken from the "ten stems" and "twelve branches" of the horary system, to represent (two for each) the year, month, day and hour of a person's birth. In matrimonial cases the use of them is indispensable in the interchange of *kéng¹-t'ieh¹* (see Note 58). Queer mistakes sometimes occur through changing the characters inadvertently or otherwise. In the **好速傳**, *Shui-ping-hsin* a beautiful yet clever girl, to avoid the persecutions of *Kao-kung-tzū*, when her *kéng-t'ieh* is sent for, dexterously transfers the eight characters representing her cousin's birthday in place of her own, and by this means not only saves herself from being married to a man she dislikes, but causes her cousin to be married to him instead. See 好速傳 Chap. 3. See also Wade's "T'ien lei," s. 114. See also "Social Life of the Chinese," Vol. I., p. 65; Vol. II., p. 345.

初版『字彙』の第 668 頁

図 1 の示すようにステントは「八個字兒」という見出し語をより詳細に解釈するため、ノートに第 72 項の記述項において追加内容を書き、また、『好速傳』の内容を引用した。引用部分から見ると、ステントは『好速傳』の中国語原文を参考にせず、ただ訳著を引用した可能性が高いと考えられる。なお、記述項の最後に *Social life of the Chinese* と *T'ien Lei* の関連索引も添付した。実際にステントはノート部分に全て五つの書籍に言及し、その引用状況を以下に示す。

表 5

書名	記述項
『好速傳』	八個字兒
『鋼經』	三不求
『酌簡』	宋玉
<i>Social life of the Chinese</i>	招親、乩、九刑、娶親過門、防水燈、合會、火葬、殉葬、庚貼、羅紋、八個字兒、屬什麼的、天干、財神、寵君
<i>T'ien Lei</i>	七月七、封神、日食、甘露、庚貼、八個字兒、天橋

現在に至るまでに筆者は最後の二つの本を確認することができた。それぞれジャスタス・ドゥリトル¹⁷ (1865) *Social life of the Chinese : with some account of their religious, governmental, educational and business customs and opinions, with special but not exclusive reference to Fuhchau* とウェード (1859) 尋津録, *Hsin Ching Lu : Book of Experiments Being the First of A Series of Contributions*

¹⁷ ジャスタス・ドゥリトル (Justus Doolittle) 、1824-1880。

to *The Study of Chinese* の *T'ien Lei* (天類編) 部分である。『好述傳』の翻訳版は多いので、ステントは何の版本を見たかは、確認できないと考えられる。一方で、『鋼經』と『酌簡』に関する具体的な情報はまだ不明である。

8) 正誤表

正誤表は 4 頁があり、刊印する時の誤ることに対して表を作って訂正した。

三、後続版本

1 第 2 版『漢英合璧相連字彙』(1877)

初版の販売状況は好調であり、1877 年にステントは本文の内容を豊富にして、第 2 版として再版された。筆者は 5 冊を探し、その館蔵状況は以下のものである。

表 3

<i>A Chinese and English Vocabulary in the Pekinese Dialect 2nd 1877</i>				
図書館	冊数	寸法	請求記号	説明
国立国会図書館	2 冊	20.5*14	495.1-S826c	状況良い
		21.7*15	75-42	状況良い
東京大学東洋文化研究所	1 冊	21*14	倉石:824:2	裏表紙半分失って、ノートが 13 頁欠ける
国立民族学博物館みんなく図書室	1 冊	21*14.5	AF1/495.132/Ste	状況良い、表紙は新たに作った
オハイオ州立大学図書館	1 冊	不明	PL1455 .S758 1877	PDF 版

第 2 版と初版の状況は大体同じ、表紙と寸法は異なるが、辞書の構成は諸本全て同じである。そのうち 3 冊の保存状態良いが、ただ東京大学東洋文化研究所本は状態が非常に悪いため、同研究所は筆者の借覧依頼を受け入れず、閲覧することができなかった。ただし、同研究所から筆者に対して本書の保存状態と辞書の構成と内容の詳細な説明があり、オハイオ州立大学図書館蔵本の PDF 版を筆者に提供してくれた。

初版と比べて、第 2 版は再版序言を追加し、索引の部分は ABC 順を削り、部首-ABC 順の索引を加えた。本文は文字列の並べ方を変えず、内容は 71 ページ分増加している。増加部分の内容を分析するために、筆者はまず基礎的な作業として二つの辞書を対照し、現在に至るまでに、約 50%の内容を対照した。その調査範囲から見ると、第 2 版の辞書構成と収録語彙の特徴に変化はなく、ステントはただ増訂と訂正作業だけをしたと考えられる。¹⁸

¹⁸ 現時点での調査対象の範囲は初版の 265 ページ、第 2 版 (1877) は 300 ページまでの内容である。対照結果について、増加した語彙は 1390 個であり、文字列の順の変化は 31 箇所、誤植の訂正は 34

2 第3版『漢英合璧相連字彙』（1898）

ステント死後、『字彙』は継続して出版され、宣教師マックギリブレイ（D.MacGillivray、1862-1931）による改訂版は第3版『字彙』として1898年にステントの名で出版された。その館蔵状況は以下のものである。

表4

<i>A Chinese and English Vocabulary in the Pekinese Dialect 3rd 1898</i>				
図書館	冊数	寸法	請求記号	説明
東洋文庫	1冊	21.5*14	貴 III-12-D-a-22	ノートが4頁欠ける
東京大学総合図書館	1冊	21.5*14	D70:854	状況良い

東洋文庫本と東京大学総合図書館本は状態が良く、東洋文庫本のノート部分は4頁分が失われている。

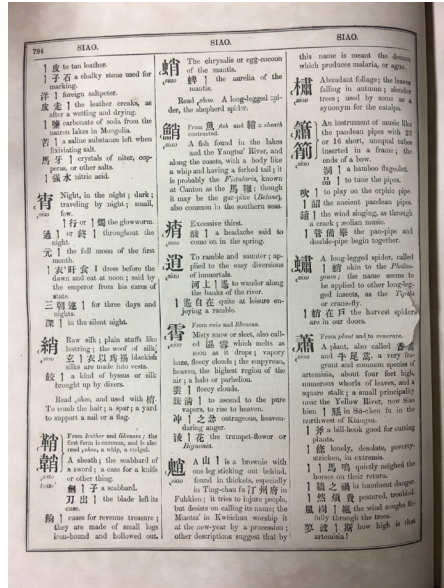
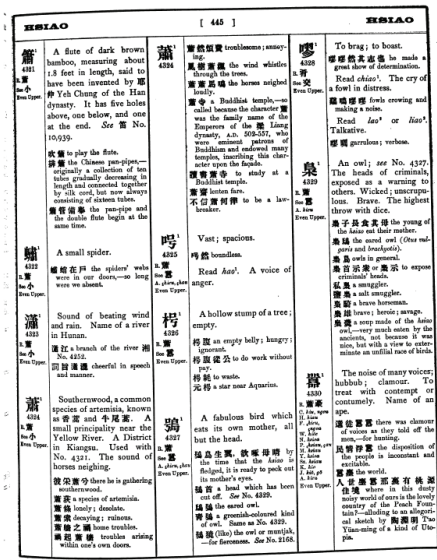
第3版は初版と第2版の序言を収録せず、新しい序言を掲載した。序言の内容は辞書の特徴を紹介し、以下5点の情報を提示した。a、ウィリアムズとジャイルズの辞書を参考したこと。b、5000個の語彙と連語を追加したこと。c、連語の配列はよりわかりやすくなったこと。d、不要な情報を取り除いたこと。e、音調と訳文はより適切になったことである。¹⁹第3版と第2版の辞書を簡単に対照すると、第3版は従来の風格を持っており、第2版の再度増訂と考えられ、辞書の構成は実際には大きな変化がなかった。注意しなければならないのは、全部の単音節語彙は英語と数字で標識を付した点である。しかし、その標識はステントとマックギリブレイのどちらが付したのかは現時点では不明である。筆者は序言部分の内容を土台として調査し、その標識はそれぞれジャイルズ（Herbert A. Giles、1845-1935）1892年版 *A Chinese-English Dictionary* とウィリアムズ（S.W. Williams、1812-1884）1896年版『漢英韻府』の索引を確認する。使用方法は「蕭^{445a794}」という例を挙げましょう。図1の示すように、「蕭^{445a794}」の標識の前の番号「445」はウィリアムズの *A Chinese-English Dictionary* の頁数であり、aは左列であり（a、b、cはそれぞれ左列、中列、右列と対応する）、後の番号「794」はウィリアムズの『漢英韻府』の頁数である。²⁰

箇所、重複の語彙は一つ、増加した注釈は5箇所である。そして、新たな親詞と見出し語は8個である。誤植の訂正した34箇所の中に、逆に正しい文字を誤る処も2箇所がある。

¹⁹ G.C.Stent(1898)、*Chinese and English Vocabulary in the Pekinese Dialect 3rd*, pp. v-vii。高（2012）は本版本辞書の序言を描写した。高永偉（2012）『辞海茫茫-英語新詞和词典之研究』（pp.274-284）。

²⁰ 筆者は1892年版の *A Chinese-English Dictionary*、1896年版、1906年版の『漢英韻府』と標識を対照し、標識はそれぞれ1892年版の *A Chinese-English Dictionary*、1896年版の『漢英韻府』と対応することができ、1906年版の『漢英韻府』は適用しないという結果を得た。この二つの辞書のほか版本は適用かどうかは現在までに不明である。

図 2



ジャイルズ (1892) *A Chinese-English Dictionary* ウィリアムズ (1896) 『漢英韻府』の第 794 頁の第 445 頁

3 *A Dictionary from English and and to Colloquial Mandarin Chinese* (1905) ²¹

1905 年、ヘメリング (K. E. G. Hemeling, 1878-1925) は *A Dictionary from English and to Colloquial Mandarin Chinese* という英華辞書を出版した。この辞書の館蔵情況は以下のものである。

表 5

<i>A Dictionary from English and to Colloquial Mandarin Chinese</i> 1905				
図書館	冊数	寸法	請求記号	説明
東洋文庫	1 冊	23.5*14	貴 III-12-D-b-31	情況良好
東京大学東洋文化研究所	1 冊	不明	E2:7	PDF 版

この版本の扉にはステントとヘメリング両方の署名がある。版本はステントシリーズの辞書の第 4 版と表明しなかったが、実は本書はヘメリングがステントの遺稿となった英華辞書の原稿に基づいて編纂したものである。²² 本書は中国語のタイトルはなく、英語のタイトルのみである。

²¹ この辞書は由来の『字彙』と異なり、英華辞書であるので、前諸版本と区別できるために、以下に改訂版と呼ぶ。

²² 1877 年以後、ステントは *A Dictionary from English and to Colloquial Mandarin Chinese* という英華辞書を編纂した。残念ながらステントは 1884 年に病気でこの世を去った。すでに編纂されていたこの英華辞書はただ三分の二を完成し、出版停止に追い込まれることとなった。その後の三分の一はヘメ

る。辞書の序言は非常に短く1頁にまとめられており、大雑把に成書の理由とステントの略歴を紹介している。本文は804頁あり、本文部分は英語のABC順の配列方法を採用し、本文の構成とロプシャイド（W. Lobscheid、1822-1893）の『英華辞書』（1866-69）が非常に似ていると考えられる。内容からみると、その辞書は英華辞書になったが、収録した語彙とその訳文は諸版本『字彙』に基づいて編纂した可能性が高いと考えられる。個々の語彙は親字とその関連語彙だけでなく、類義語と連語も共に収録されている。また、収録されている語彙と連語はすべてウェード式で標識された。ページ数から見ると、内容は大幅に増訂しているはずだと考えられる。ただし、辞書形式は異なるので、具体的な増訂状況に関する分析は困難であると考えられる。補遺部分が二つあり、それぞれ38頁と2頁である。²³前諸版本の索引部分と部首表とノートは全て削除された。

4 *A Chinese and English Pocket Dictionary* (1874)

1874年にステントは*A Chinese and English Pocket Dictionary*という華英袖珍辞書を編纂し上海で出版した。

表6

<i>A Chinese and English Pocket Dictionary</i> 1874				
図書館	冊数	寸法	請求記号	説明
東洋文庫	1冊	16.5*10.5	貴 III-12-D-a-1	状況良い
国立国会図書館	1冊	16.5*10.5	495.1-S826c	状況良い

この辞書は、語彙と例句を列挙するのではなく、ただ漢字とその発音と意味を記述している。初版『字彙』の索引（627-650頁）と比べて、この辞書は初版『字彙』の部首-音順索引に基づいて編纂された可能性が非常に高いと考えられる。

諸版本辞書の構造を次の表に示す。

表7

	初版（1871）	第2版（1877）	第3版（1898）	改訂版（1905）
序言	初版(5頁)	初版（5頁）、第2版（2頁）	第3版（3頁）	改訂版（1頁）
献詞	1頁	1頁	なし	なし

リングを続けて完成した。このことに関するのはヘメリング（1905）*A Dictionary from English and to Colloquial Mandarin Chinese*の序言部分に垣間見ることができる。

²³ 宮田（2010）はその二つの補遺部分は単行本として出版したことがあると述べたが、現在に至るまでに筆者はこの単行本を見つけられなかった。

本文頁数	572 頁	643 頁	740 頁	844 頁
索引	1、ABC 順 2、部首-ABC 順	1、部首-ABC 順 2、部首-筆画順	部首-筆画順	なし
部首表	8 頁	同じ	同じ	なし
ノート	15 頁	同じ	同じ	なし
勘誤表	4 頁	5 頁	なし	なし

四、辞書の底本と継承

1 底本

『字彙』の編纂過程については、ステントは「中国の小説に現れる奇妙な習慣、日常生活、漢字の組み合わせ、イディオムなど、先行著書にないものに焦点をあてて収集した語彙が大部分を占めており、…」と辞書の序言にこのように述べた。ただし、ステントはどのような小説から用例を採集したかについては、明らかに説明していない。そして、ステントはウェード、モリソン (Robert Morison 1782-1834)、メドハースト (Walter Henry Medhurst 1796-1857) の著作を参照したと序言の中に述べたが、ウェードを除いて、実際に初版『字彙』とその二人の著作は緊密なつながりは感じられない。ステントはどのような辞書を底本として使ったのは、現在までに不明である。一方、『字彙』の構成から見て、『字彙』の発音表記、索引、部首表、ノート (記述項の解釈) という機能的部分の根源は全部ウェードの『尋津路』と『語言自邇集』であると考えられ、本文部分における機能的語彙 (例えば量詞²⁴) にも影響を受ける可能性が非常に高いと考えられる。

2 継承

『字彙』の出版は直接にマックギリプレイとヘメリングに影響を及ぼし、1905年からマックギリプレイは本書に基づきシリーズの辞書 (1905-1921、改訂概要は表8に示す) を編纂し、ヘメリングはステントの遺稿を完成し、さらに1916年の彼の名著『官話』の扉に「Based on the Dictionary of the late G. C. Stent, published 1905 by the Maritime Customs」という文を記録した²⁵。そして、ドゥリトル (1872) 『英華萃林韻府』の第二巻序言に「第3部の表70の比喩類の前8頁はステントの『字彙』 (1871) を参考した」と述べた。ただし、具体的な参考状況はまだ不明である。

表8

²⁴ 筆者は初版と第2版の『字彙』の量詞部分と『語言自邇集』 (1867) を比べ、両方の採集した語彙の順と内容がほぼ同じ、ステントは『字彙』の編纂に当たり、量詞部分は直接に『語言自邇集』の内容を利用して編纂したということを確認する。

²⁵ 実にこの二つの辞書の関連はまだ不明であり、ただ『官話』の日常用語の部分は *A Dictionary from English and to Colloquial Mandarin Chinese* (1905) を参考した可能性が高いと考えられる。

時期	版本	本文頁数	説明
1905	初版	924	<i>A Mandarin-Romanized Dictionary of Chinese</i>
1907	第2版	924	『華英成語合璧字集』という中国語書名を追加した。
1911	第3版	941	『英華成語合璧字集』という中国語書名を変え、英語書名に ... <i>WITH Supplement of New Terms and Phrases, now current</i> を追加した。
1918	第4版	1093	英語書名は... <i>Including New Terms and Phrases, now current</i> を変え、扉に「the same Principle as G. C. Stent's Vocabulary」という文を消した。
1921	第5版	1093	第4版を再版発行と考えられ、内容は完全に同じである。
不明	第6版	不明	不明
1925	第7版	不明	不明
1930	第8版	不明	不明

そのほか、ジャイルズ（1892）*A Chinese-English Dictionary* の扉と序言に『字彙』を言及しないが、この辞書も『字彙』からの影響を及ぼした可能性が高いと考えられる。初版『字彙』と1892年版 *A Chinese-English Dictionary* を簡単に比べ、比較結果は以下のとおりである。

表9（同様な部分は下線で表す）

記述項	『字彙』（1871）	<i>A Chinese-English Dictionary</i> （1892）
阿哥	the eldest son of the emperor; <u>an elder brother</u>	A son of an Emperor of the present dynasty (from the Manchu -word <i>ajêh</i>) ; <u>an elder brother</u>
阿公子	<u>the eldest son of a nobleman</u>	<u>the eldest son of a nobleman</u>
阿媽	a nurse	なし
阿魏	<u>assafoetida</u>	<u>asafoetida</u>
阿甚麼	ha! what! <u>what are you hawing at?</u>	<u>what are you hawing at?</u>
哀召	<u>edict announcing the death of an Emperor</u>	<u>an edict announcing the death of an Emperor</u>
哀極	<u>extreme grief</u>	<u>extreme grief</u>
哀泣	to lament, <u>to weep</u>	<u>to weep</u>
哀矜	to pity, <u>to commiserate</u>	<u>to commiserate</u>
哀求	to entreat piteously, <u>to implore</u>	<u>to implore</u>
哀號	loud lamentation	to wail loudly
哀惜	to pity, <u>to commiserate</u>	<u>to commiserate</u>

哀告	to make a piteous	to make a piteous report
哀懇	to earnestly entreat	to implore

上の表に示したように、ジャイルズ (1892) *A Chinese-English Dictionary* と比べ、両方の訳文部分の内容は似ていると考えられる。実際には深く対比したら、*A Chinese-English Dictionary* における日常用語部分の採用と訳文と『字彙』の類似度は高く、特に「阿公子」、「阿甚麼」、「哀召」、「哀極」のような『字彙』特有の語彙は *A Chinese-English Dictionary* にたくさん収録された。ジャイルズは辞書を編纂する時、『字彙』は日常用語参考書の一つとして参考したはずだと考えられる。

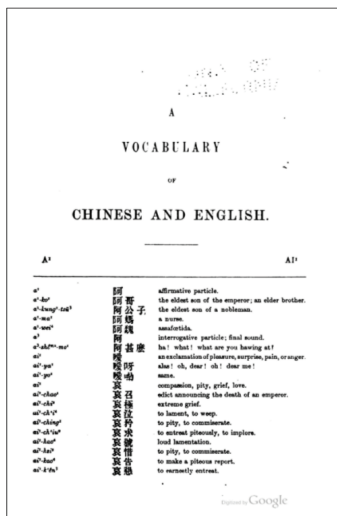
いっぽう、東アジアの場合は、日本において石山福治が編纂した『支那語辞彙』(1904)²⁶の例言に、「……更にGeorge Carter Stent氏のChinese and English Vocabularyを参照し舊稿類輯したるの語数三萬餘語を減じて約一萬語となし改刪抜粋最も普通に必要なるもの、みを探りて之を脱稿したり」と述べられている。筆者は『支那語辞彙』を第3版『字彙』と簡単に対照し、『支那語辞彙』は「『字彙』を参照して三萬餘語を減じて約一萬語になる」ということではなく、逆に直接に『字彙』から用例を採集した可能性が非常に高いと考えられる。²⁷10年後、1914年に石山福治は『支那語辞彙』の内容に加筆し、『支那語大辞彙』²⁸を編纂した。本文部分をざっと目を通し、この辞書の内容は『字彙』を参考したはずであり、構成も『字彙』とほぼ同じである(図3)。注意しなければならないのは、例言においてステントに関する内容を全て消したという点である。『支那語辞彙』、『支那語大辞彙』と第3版『字彙』の構成の比較を以下の表に示す(表10)。

²⁶ 石山福治 (1904) 『支那語辞彙』、文求堂。

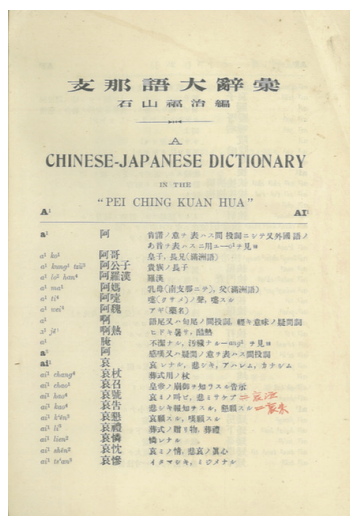
²⁷ 筆者は第3版『字彙』という版本を選んだ理由は二つがある。一つは韓 (2017) は「『支那語辞彙』を編纂した時第3版『字彙』を参考した可能性が高い」と述べ、もう一つは第3版『字彙』と『支那語辞彙』の出版時期が一番近く(それぞれ1898年と1905年)と考えられる。韓一瑾 (2017) 「司登得<<漢英合璧相連字彙>>譜系考」、『国際漢語』第四号、pp.115-120。

²⁸ 石山福治 (1914) 『支那語大辞彙』、文求堂。

図3



『字彙』(1871)の第1頁



『支那語大辞彙』(1914)の第1頁

表 10

	『字彙』(1898)	『支那語辞彙』(1904)	『支那語大辞彙』(1914)
扉	1 頁	1 頁	2 頁 (中国語、英語)
序言	5 頁	5 頁	3 頁
献詞	1 頁	なし	なし
本文	740 頁	496 頁	924 頁
索引	部首-筆画順	1、五十音 (拼音索引) 2、部首-筆画順 3、音順	部首-筆画順
部首表	8 頁	なし	2 頁
ノート	15 頁	なし	補遺、23 頁 付録、40 頁

おわりに

本稿は初版『字彙』の構成とその特徴、後続版本の概況、底本と継承という三つの側面からそれぞれ検討し、『字彙』系譜を垣間見ることができる。ただし、時間の原因で現時点ではまだ調査途中であり、考えが浅く不備が多く解明されない問題は依然に存在していると考えられる。例えば、『字彙』とウィリアムズの『漢英韻府』（1896）の単音節語を一つずつ対応できるということから見ると、『字彙』と『漢英韻府』の関係は再度検討する必要があるだろう。なお、『字彙』と『支那語辞彙』、『支那語大辞彙』の関係、さらに『支那語辞彙』は日本による漢日辞書の位置づけも深くに検討する必要があると考えられる。つまり、『字彙』の位置付けを正確に把握するために、『字彙』の欧米人と日本人による中国語辞書の歴史における位置づけを再度検討する必要があると考えられる。

いっぽう、現在に至るまでに『字彙』に関する研究は、本文部分の語彙の構成と内容、例えば単語の選択や語彙の特徴や連語の文法構成などに及んでおらず、また北京官話との関連を十分に論じていない。つまり『字彙』の全体的な印象を描写するだけに留まり、『字彙』の資料的価値は十分認識されているとは言えない。このような状況において、本稿は初版『字彙』を中心に辞書の構成の七つの部分の特徴をそれぞれ検討した。未来に『字彙』の本文部分を19世紀北京官話の語彙資料として詳細に研究するつもりである。